

学校名 (児童数)	日野町立日野小学校 (567人)
--------------	---------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：滋賀県蒲生郡日野町大窪 331 番地

電話番号：0748-52-0073

【研究の目的，研究内容】

(1) 研究主題

自分の考えをいかし、いきいきと表現できる子どもの育成
～付けたい力を明確にした上で、児童の「書く力」を高めるための授業改善～

(2) 研究主題設定の理由

平成25年度より、学力向上アプローチ事業の指定を受け、国語科を窓口にして「書く力」を高める授業改善の研究を進めてきた。2年間の取組では、書くモデルを生かすことや相手意識や学習の終末を意識した授業展開により、児童が意欲を持って書く姿を見ることができた。また、そのような授業が児童の「書く力」を確かに高めることができたかを評価問題を通して分析する手法についても研究を進めてきた。このような取組により、平成26年度の全国学力・学習状況調査では、児童の無解答率に大きな改善が見られた。

しかし、依然として全国学力・学習状況調査等の結果から、本校の児童の学習状況において以下のような課題が見られる。

【国語】

- ・与えられた条件に沿って、自分の考えを書きまとめることが苦手である。
- ・理由や根拠を明らかにして、自分の考えを説明したりまとめたりすることが苦手である。

【算数】

- ・基礎的・基本的な内容は理解できているが、十分に定着していない。理由や根拠を明らかにして説明することが苦手である。

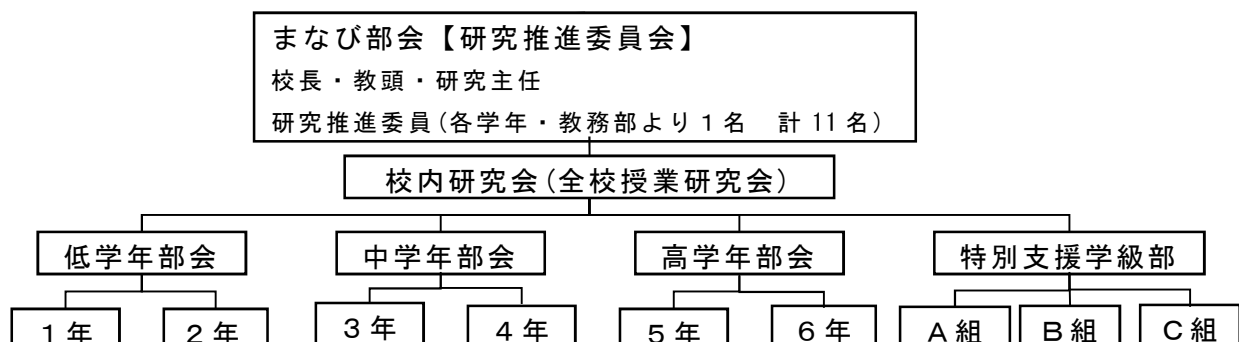
【児童質問紙】

- ・家庭での学習時間が少なく、計画を立てて取り組む習慣が身についていない。
- ・国語の「書くこと」や「話すこと」への抵抗が大きい。

本校では、これまでも、児童が主体的に学習に取り組むための授業改善と教師自身の指導力向上を目指して校内研究に取り組んできた。また、昨年度より算数の基礎的・基本的な内容の確実な定着に向けた放課後学習「日野小てらこや」の取組をスタートさせた。国語科の授業改善の取組では、付けたい力を明確にした上で、児童が主体的に学ぶ言語活動を位置付けた授業作りに取り組んできた。これらの取組の積み重ねにより、児童が目的意識、相手意識を持って意欲的に学習する授業が展開できるようになってきた。

今年度は付けたい力を明確にした授業をさらに深化させる。その中でも、特に児童の「書く力」を高めることに焦点をあて授業研究を進める。それによって、自分の考えを生かし、いきいきと表現できる子どもを育成したい。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組の経過

4月15日(水)	今年度の研究についての確認	職員会議
4月21日(火)	全国学力学習状況調査(6年)の実施 町内一斉標準学力調査(2~5年)の実施	
4月22日(水)	全国学力学習状況調査自校採点とその分析会議	職員研修
5月20日(水)	今年度のアプローチ事業についての報告	職員会議
7月8日(水)	「伝えたい!4年3組思いで新聞を書こう」(4年)	授業研究会
7月28日(火)	標準学力調査について結果の分析、評価問題作成	校内研究会
9月7日(月)	全国学力学習状況調査の結果分析と授業改善の検討	校内研究会
10月13日(火)	「環境問題をあの人に呼びかける文章を書こう」(6年)	授業研究会
10月23日(金)	「資料を使って、呼びかけるポスターを書こう」(5年)	授業研究会
10月30日(金)	「自分の感動を作文で伝えよう!」(3年)	授業研究会
11月6日(金)	「家の人を友だちにしようかいしよう」(2年)	授業研究会
11月26日(木)	「ぼく・わたしの 思い出紹介! ~アイテムを使って学級通信で伝えよう~」(1年)	授業研究会
1月14日(木)	「3年生に、クラブの楽しさをポスターで伝えよう」 【学力向上アプローチ事業実証授業】(4年)	授業研究協議会
2月上旬	今年度研究のまとめ	研究推進委員会
2月下旬	次年度研究の方向性確認	校内研究会

その他：音読集会(年2回開催) ノート展(学期に1回)

(5) 具体的な研究内容・方法, 研究を進める上での工夫点等

(ア) 付けたい力の明確化と評価問題作成

全校研究会を設定して、問題作成の時間を確保した。「プラス1問の評価問題」を合言葉に、各学年が授業で身に付けさせたい力を焦点化し、実践につなげた。

(イ) 「全員研究」の意識

研究授業は各学年1授業。学年全員が研究授業という意識づくりが大切である。そこで、評価問題作成や指導案検討の時間を週計画等で明確にし、各学年の担任団が協議して授業づくりを進めた。

(ウ) ワークショップ型の事後研究会

事後研究では、KJ法による授業分析で授業改善策を検討した。授業における改善策を主体的に検討することで、自分の授業づくりに生かしていけるようにした。



写真1 授業研究会の様子

【研究成果と課題】

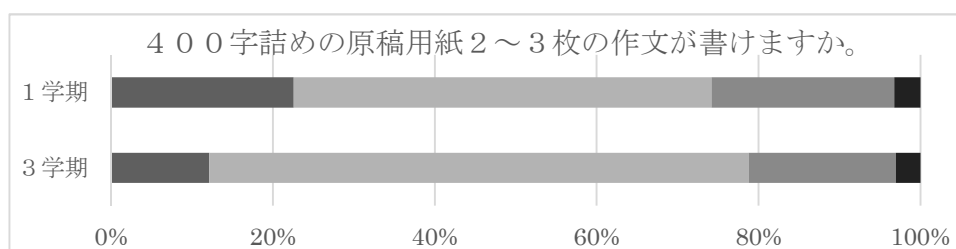
(1) 研究成果

- ・第4学年の実践では、1学期の段階でメモの内容を基に、中心を明らかにして文を書く力は概ね身に付けることができた。3学期には、さらに、事例をあげたり、理由を明らかにしたりして書く力の定着を目指して実践を進めた。授業を通して、必要に応じて理由や事例を挙げて書く必要性についての意識は高まった。しかし、評価問題の結果を見ると、資料を読み取り、条件を満たして文章を書くことについては十分ではなかった。授業研究会でも、課題として学習活動で提示する教師モデル文の十分な検証が必要という意見があった。評価問題をふまえた教材、教具の作成とその吟味が今後、授業づくりで大切にしなければならない。

表 1 今年度研究授業を実施した第 4 学年の評価問題結果

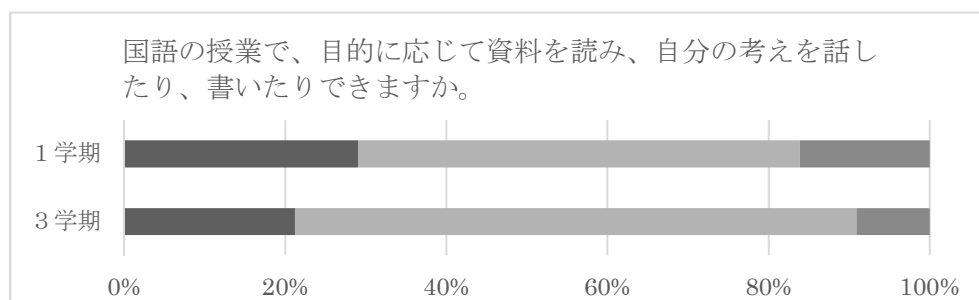
	付きたい力	単 元	評価問題（概要）	正答率（%）
1 学期	伝えたい事柄を正確に、中心を明らかにして、それを基に新聞記事を分かりやすく書く力	伝えたい！4年3組思い出新聞を書こう 教材：「みんなで新聞を作ろう」	メモに示された内容を生かして、新聞記事の一文目を書く。（文字数は、15字～25文）	79%
3 学期 (AP 実証)	ポスターという形式を使い目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く力	3年生に、クラブの楽しさをポスターで伝えよう。教材：「目的や形式に合わせて書こう」	メモをもとに、滋賀県の見どころ紹介ポスターを作成する。 ※AP 評価問題 設問 1 について	(1) 記述 34% (2) 選択 54% (3) 短答 39%

・4年生の「書くこと」に関する意識の変容を把握するために1学期（6月実施）と3学期（1月実施）に調査した。以下に示す通りである（数値は省略）。



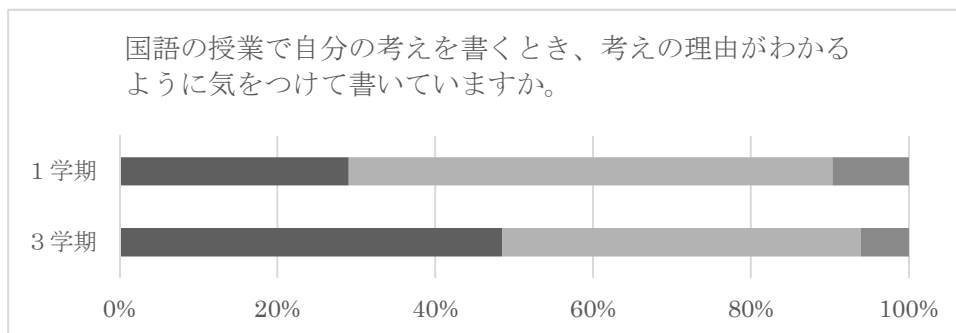
凡例：左から（書ける / どちらかといえば、書ける / どちらかといえば、書けない / 書けない）

⇒「書ける」、「どちらかといえば、書ける」の割合が4.6ポイントアップした。



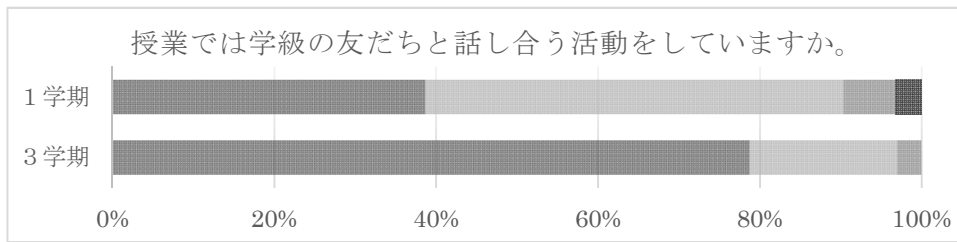
凡例：左から（できる / どちらかといえば、できる / どちらかといえば、できない / できない）

⇒「できる」、「どちらかといえば、できる」の割合が7ポイントアップした。できないと答えた児童はいなかった。



凡例：左から（書いている / どちらかといえば、書いている / どちらかといえば、書いていない / 書いていない）

⇒「書いている」、「どちらかといえば、書いている」の割合が3.6ポイントアップした。「書いていない」と答えた児童はいなかった。



凡例：左から（している／どちらかといえば、している／どちらかといえば、していない／していない）

⇒「している」、「どちらかといえば、している」の割合が 6.6 ポイントアップした。

いずれの結果も、肯定的に回答する割合のポイントがアップした。原稿用紙に書くという意識調査からは、「文章を書くこと」は簡単ではないという気づいた児童が増えた結果、「書ける」と回答した児童が減ったが、「書くこと」を抵抗なくできる児童は増えたと考えることができるのではないだろうか。

- 各学年が評価問題を作成した上で、指導案検討に入ったため、児童に「付けたい力」を授業でどのように指導するかを具体的に検討し、実践につなげることができた。また、子どもたちの書く意欲が高まり、ノート展への出展を目標にする児童や「100 文字作文」の取組に挑戦する児童が増加した。
- 国語科で蓄えた「書く力」を、例えば生活科の「おもちゃランドを開こう」の遊びの紹介文を書くことに生かす、算数科で自分の考えを発表ボードに書き、説明することに生かす等、他の教科に広げていく姿が見られたり、取り組んだりできた。
- 授業研究会（公開授業）を町内の小中学校に呼びかけ参加していただいた。本校の授業改善の取組を町内の小中学校に広げることができた。

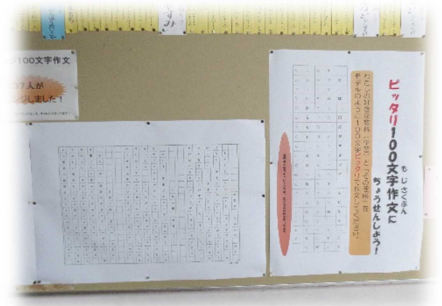
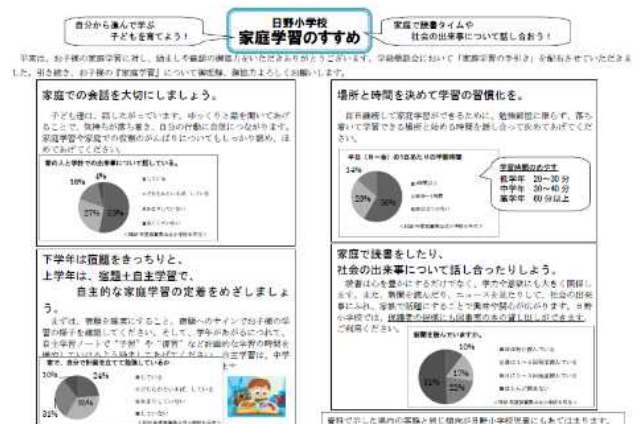


写真2 100文字作文校内掲示

(2) 課題等

- 低学年においては、書くことに対しての意欲は高まってきているが、まだまだ表現方法が十分身に付いておらず、自分の考えを表現しきれないこともある。付けたい力を明確にした授業づくりとともに、既習事項をいかした学習活動の継続が大切である。
- 授業改善、校内言語環境の整備などに取り組んできた。同時に、家庭への啓発にも取り組んできた。今後も、継続して子ども達の学力向上のために学校、家庭が「子どもの学ぶ力高める。」という共通の思いのもと、両輪となって取り組むことが大切である。



資料1 家庭への啓発資料